

2007年 社長(西尾 進路)年頭挨拶について

記者各位

新年明けましておめでとうございます。1月5日(金)、当社社長、西尾 進路は本社にて下記の通り年頭挨拶を行いましたのでお知らせいたします。

<要旨>

1. 2006年を振り返って

2006年、当社は、「グループ理念・6つの尊重・行動指針」からなる「経営理念」を一新するとともに、その実現に向けて様々な施策を展開した。具体的には、「ジャパンエナジーとの広範な業務提携」などのアライアンス戦略の推進、石油化学やLNG、海外潤滑油事業への戦略投資、および「ベトナム・ランドン油田における随伴ガスの回収・有効利用プロジェクトのCDM認定」、「公益信託ENEOS水素基金の創設」などの環境分野における先進的な活動である。ただし、前向きな諸施策の実行の一方で、コスト削減・効率化の進捗の遅れや、生産・流通部門におけるトラブル多発などの反省すべき面もある。コスト削減については、第3次連結中期経営計画の達成にむけて、ゼロベースで見直しを行う必要がある。また、トラブルについては、叡智を結集することで極限まで減らすことは可能と考える。

2. 2007年の重点課題

本年の重点課題は、「経営理念の実践」、「第3次連結中期経営計画の目標完達」、「徹底した質へのこだわり」の3点である。

(1)「経営理念の実践」…当社グループの持続的な成長・発展のためには、当社グループ全社員が、「経営理念」を日々の事業活動における判断の拠りどころとすることが不可欠である。そして自らの言動が、「経営理念」に適っているかどうかを常に意識し、誠実に業務を遂行することが肝要である。

(2)「第3次連結中期経営計画の目標完達」…2007年は第3次連結中期経営計画3カ年の最終年であり、連結経常利益(1,900億円)、ROE(10%)など、数値目標はステークホルダーへのコミットメントであり、これを必ず達成する。また、本年は、「飛躍の時代」と位置づけた第4次連結中期経営計画を策定する。今まさに時代の転換期との認識のもと、長期展望に立った骨太の計画を策定したい。

(3)「徹底した質へのこだわり」…当社はここ数年、「量から質への転換」を旗印に、経営の隅々にわたる改善を進めてきた。「付加価値に裏打ちされた商品・サービスを提供すること」、「競争力ある商品を提供すること」、「闇雲に量を追求しないこと」、「お客様から評価され適正価格で購入していただくこと」、「適正利潤をあげ、配当あるいは有効な投資にまわすこと」など、全てのステークホルダーに満足を届けられるよう、今一度、「質」に対する強いこだわりを再認識する必要がある。

3. グループ社員への期待

歴史的な大きな転換期にある今、当社が発展していくためには、絶えざる革新とそれによって生み出される新しい価値を市場に投入し続けることが要求される。よって、業務遂行に際して、「常にお客様をはじめとするステークホルダーの目線で考え、行動すること」、「現状に満足することなく、常にチャレンジ精神を持ち続けること」、「全体最適の思考」の3点に留意し、新しい発想で変革にチャレンジしていくことを期待する。

以上